



OPROARTS Connector for Salesforce

ユーザーガイド

(PDF/ヘッダー明細)

Ver.1.4

改訂履歴

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/05/30	新規作成
1.1	2021/07/28	6. 参考リンク を追記
1.2	2021/09/06	OPROARTS Designer へのログイン方法について追記
1.3	2021/12/02	3.4 その他のコンポーネント を追加 ラベルの「動的」にチェックを入れる操作について強調するよう編集
1.4	2025/09/01	4.1 接続アプリケーションのインストールについて追記

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。

なお、本文中に TM マーク、©マークは明記しておりません。

本書の使い方

本資料では、簡単な帳票見本を作成する中で、OPROARTS Connector for Salesforce をご利用するにあたって最低限必要な基本操作手順を理解することを目的としています。

各画面のボタンやコンポーネントの詳細などについては製品ヘルプをご参照ください。

本書の表記

本書では、以下の表記で記載しています。

表記方法	内容
注意	操作上の注意事項について記載しています。
Point	操作上で知っていると便利なポイントについて記載しています。
参照	本書における参照先を記載しています。
[]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。

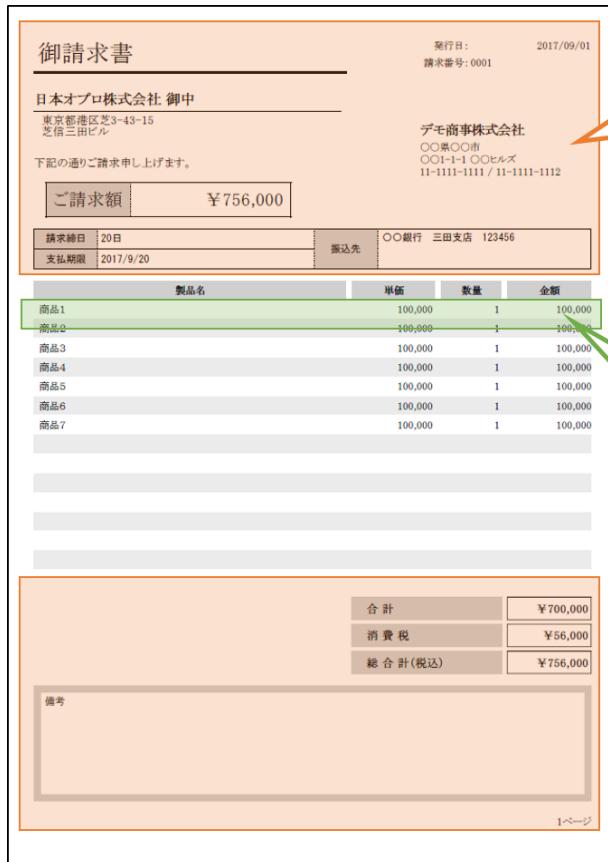
目次

1. はじめに	5
2. 全体の流れ	6
3. テンプレートのデザイン	7
3.1 テンプレートの新規作成	8
3.2 基本操作の紹介	10
3.3 実際に作る	12
3.4 その他のコンポーネント	15
4. 項目のマッピング	17
4.1 1st Salesforce へのログイン	17
4.2 2nd 起点オブジェクトの選択	18
4.3 3rd 明細オブジェクトの選択	18
4.4 4th 明細オブジェクトの詳細	19
4.5 5th 関連する子オブジェクトの選択	20
4.6 6th 動的コンポーネントとマッピング	20
5. 出力アクションの作成	24
5.1 詳細ページに出力アクションを配置する	24
5.2 リストページに出力アクションを配置する	31
6. 参考リンク	34

1. はじめに

ここでは Connector for Salesforce で出力する帳票を作成するにあたって重要な「ヘッダー明細型」の概念について説明します。

ヘッダー(またはフッター)と明細のある帳票を 2 つのグループに分けて考えます。ヘッダーやフッターパートを「非明細部」と呼びます。それ以外の部分を「明細部」と呼びます。この非明細部と明細部に分けることのできる帳票を、「ヘッダー明細型」と定義しています。



・非明細部

取引先や住所などのように、帳票上に一度しか表示されない項目が集まる領域。
ヘッダーやフッター

・明細部

商品名などといった、帳票によって行数が変わる領域。
「繰り返し領域」ともいう。

Salesforce のオブジェクトデータからこのヘッダー明細型帳票を作る場合、

非明細部: 起点となるオブジェクト、または関連オブジェクトのレコード(単一レコード)項目

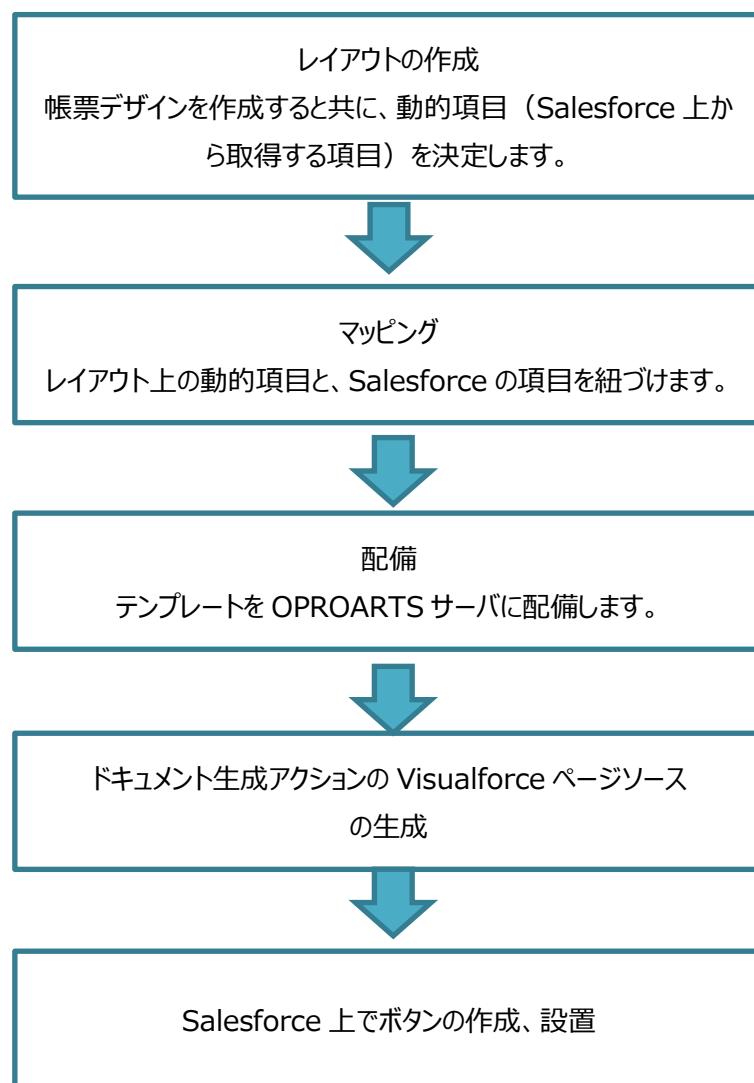
明細部: 起点となるオブジェクトの子オブジェクトのレコード(複数レコード)項目

を用いてそれぞれの部分を埋めることになります。

つまり、非明細部に用いる起点オブジェクトと明細部に用いる子オブジェクトは 1 対 n の関係になります。

2. 全体の流れ

OPROARTS Connector では、以下のような流れで帳票出力が可能になります。



3. テンプレートのデザイン

出力したい帳票の見た目を OPROARTS Live でデザインします。

本ユーザーガイドでは、以下のような帳票を出力するためのテンプレートを作成します。

サンプル帳票

① 2019/05/30

② Grand Hotels & Resorts Ltd

商品名

SLA: Bronze

SLA: Gold

SLA: Platinum

SLA: Silver

③

備考

これはサンプルテキストです。

④

⑤ Page 1

番号	内容
①	帳票出力した日付
②	商談オブジェクトに紐づく取引先名
③	商談オブジェクトの子オブジェクトである商談商品オブジェクトの商品名
④	商談オブジェクトの説明項目
⑤	ページの番号

番号を振っていない部分の文言は固定文言です。

任意の文言を配置、もしくは何も配置しなくても問題ありません。

※本テンプレートは帳票テンプレートの構造を理解するため、敢えて非常にシンプルな構成にしています。

このマニュアルで使用しない各帳票コンポーネントは以下の章で紹介していますので、必要に応じてご参照ください。

[他のコンポーネント](#)

3.1 テンプレートの新規作成

OPROARTS Designer にログインし、左上の[新規作成]をクリックします。



Point セットアップガイドの「3.1 「LAD」ライセンスの登録」の設定ができていれば、「OPROARTS」タブの画面に[START]ボタンが表示されます。
そちらをクリックすることで、ログイン可能です。

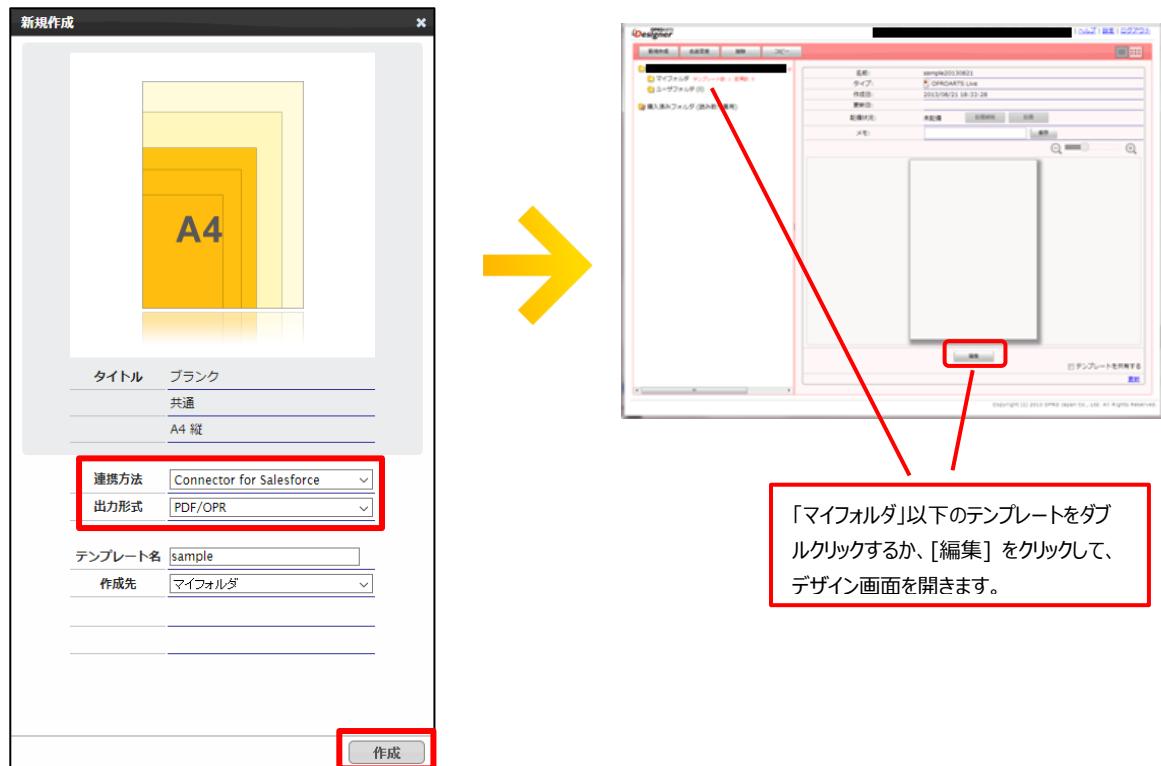


ここでは、[ブランク] タブで A4 縦を選択します。

連携方法「Connector for Salesforce」、出力形式「PDF/OPR」を選択してください。

以下のルールに従って任意のテンプレート名を入力し、[作成] をクリックしてください。

- ・使用できる文字は、英数字とアンダーバー
- ・先頭の文字はアルファベットである
- ・最後の文字がアンダースコアでない
- ・アンダーバーが 2 個以上連続していない



3.2 基本操作の紹介

左上にあるコンポーネントのリストから配置したいコンポーネントを選択してからレイアウト上をクリックすることで選択したコンポーネントを配置できます。



また、画面左側に現れるプロパティを変更することで現在選択されているコンポーネントの詳細を設定できます。



その他に、知つておくと便利な基本のショートカットキーを紹介します。

ショートカットキー	動作
[Ctrl] + [矢印] (↑ ↓ ← →)	コンポーネントを 1px ずつ移動
[Ctrl] + [Shift] + [矢印] (↑ ↓ ← →)	コンポーネントをグリッドの間隔単位で移動
[Shift] + [矢印] (↑ ↓ ← →)	コンポーネントのサイズを変更
[Ctrl] + 選択	コンポーネントを複数選択する(※)
Ctrl+Z	取消
Ctrl+Y	やり直し
Ctrl+X	切り取り
Ctrl+C	コピー
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+A	全て選択(※)
Esc	選択解除
Delete	削除

(※)以下のコンポーネントを組み合わせて、同時に選択することはできません。

- ・他のコンポーネントを内包するコンポーネント
- ・他のコンポーネントに内包されたコンポーネント

3.3 実際に作る

ここでは、実際にテンプレートをデザインしながら Live の使い方を学んでいきます。

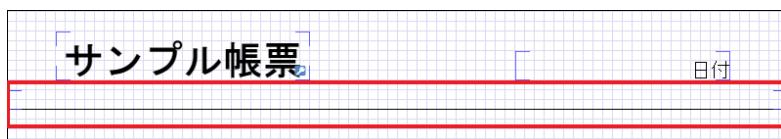
1. 罫線や枠線を引く

Line コンポーネントや Rectangle コンポーネントを用いて仕切り線を引きます。

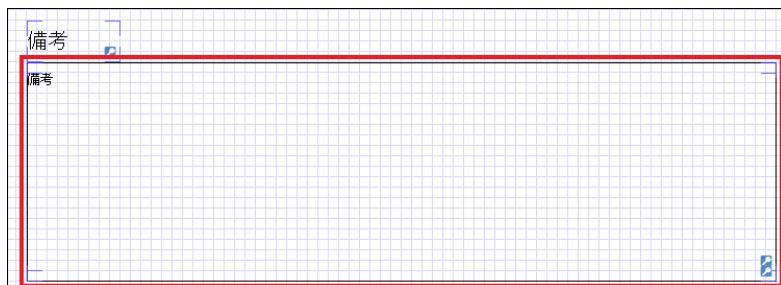


実際にレイアウトに配置するとこのようになります。

罫線



枠線

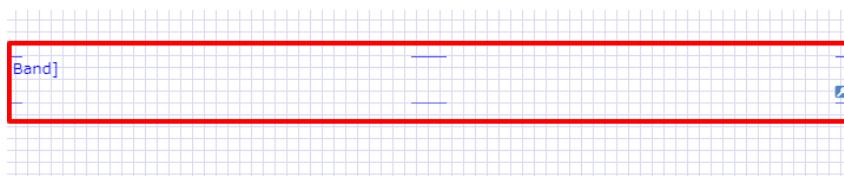


2. データセットテーブルを設置

DatasetTable コンポーネントを配置して、明細部分のレイアウトを作成します。



Dataset Table コンポーネントの中に、Band というコンポーネントがあります。



この中に配置されたコンポーネントは、明細オブジェクトレコードの数だけ繰り返し表示されます。

ここでは、商品名の動的項目ラベルと罫線を配置します。

※「動的」項目については、次のステップで説明します。



3. ラベルを配置、動的項目にチェック

文字列を表示したい部分には、Label コンポーネントを配置します。



実際にレイアウトに配置するとこのようになります。



ラベルの詳細内容は以下のように設定します。

※取引先名を表示するラベルを一例として取り上げているだけなので、配置したそれぞれのラベルコンポーネントに合わせて設定してください。



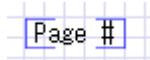
- **タイプ**
このラベルは取引先名の値を表示するので、「動的」に設定します。
固定文言の場合、「静的」を指定します。
- **アライン**
水平位置、垂直位置ともに、ラベルのどの位置に文字が表示されるのか指定します。
- **スタイル**
文字数が多くても全体が表示されるよう、「縮小して全体を表示」にチェックを入れます。
- **行間隔**
行の折り返しはしないので、0 のままにしておきます。

4. ページ番号を挿入

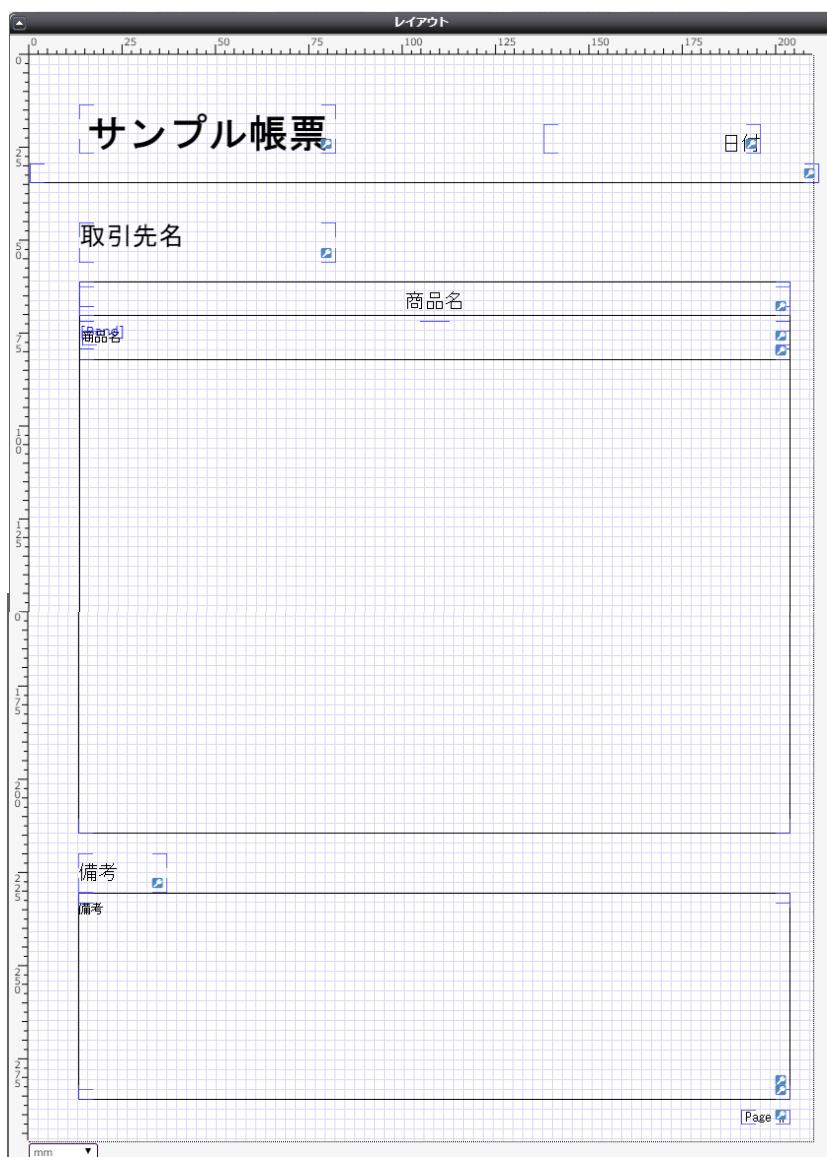
レイアウト右下にページ番号を配置します。



実際にレイアウトに配置するとこのようになります。



完成したレイアウトは以下です。



デザインが出来上がったら、保存ボタン()をクリックして、矢印ボタン()でマッピングへ進みます。

3.4 その他のコンポーネント

ここでは、3.3までに紹介したコンポーネントを含む全ての使用可能なコンポーネントについてリストアップして説明します。



番号	名称	機能
1	Line	レイアウトにラインを描画します。
2	Rectangle	レイアウトに正方形・長方形を描画します。
3	Circle	レイアウトに円・橢円を描画します。
4	Label	レイアウトにテキストを表示します。テキストは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時にデータソースの値を動的に適用することもできます。
5	Image	レイアウトに画像を挿入します。画像は、 ・お使いのブラウザよりアップロードされたもの ・Salesforce 組織に登録されている画像（画像ファイルのレコード ID から取得） ・外部サーバから URL で取得できるものを設定できます。
6	Barcode	レイアウトにバーコード画像を挿入します。Barcode の元となるデータは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時にデータソースの値を動的に適用することもできます。
7	Page Number	レイアウトにページ番号を表示します。コンポーネント毎に、ページ番号の採番・表示ルールを設定することができます。
8	Total Page Number	レイアウトに総ページ数を表示します。ただし、OPR 形式での出力のみ有効なコンポーネントです。
9	Dataset Table	データソースのデータとリンクし、バンドを使用してレイアウトにテーブルを作成します。Dataset Table コンポーネントは、内部に Band コンポーネントを持ちます。
10	Horizontal Dataset Table	データによって明細行が右方向に伸びる点を除き Dataset Table コンポーネントと同じです。
11	Container	内部に複数 DatasetTable を配置可能なコンポーネントです。Container 内に二つの DatasetTable を配置して出力すると、最初の DatasetTable にテーブルの内

		容すべてを表示した後、二番目の DatasetTable にテーブルの内容を表示します。
--	--	--

Dataset Table 内に設定できるコンポーネント

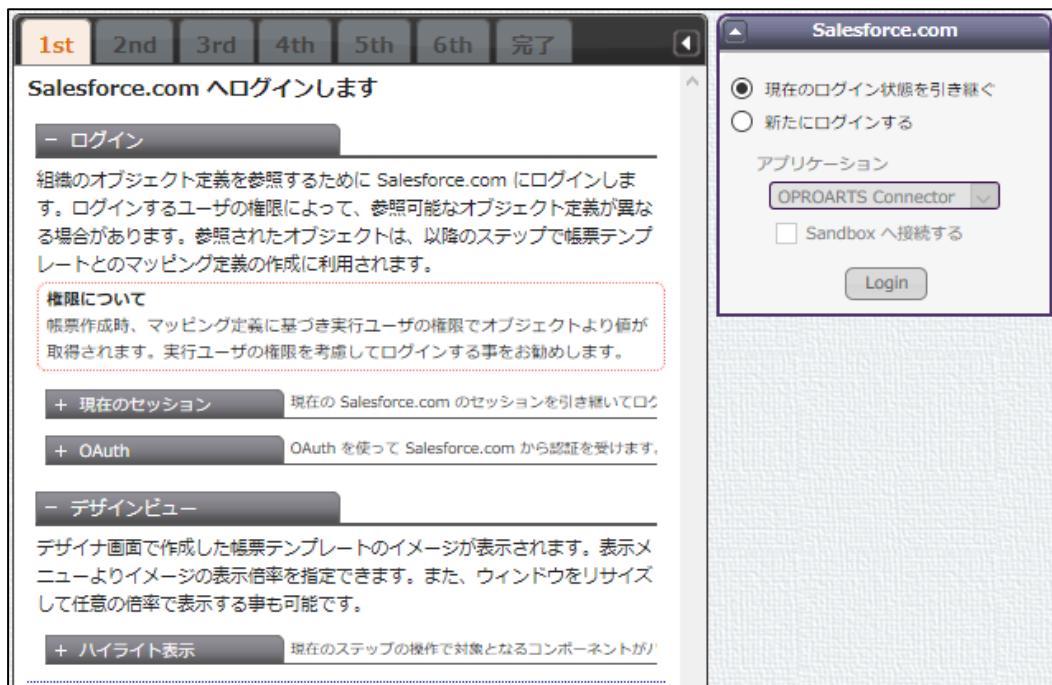
名称	機能
Band	Dataset Table コンポーネントに繰り返し領域（明細行）を描画します。Dataset Table 配置時に内包されています。
Report Header	Dataset Table コンポーネントにレポートヘッダ領域を描画します。レポートヘッダは、繰り返し領域（明細行）の前に 1 度だけ描画されるヘッダです。
Report Footer	Report Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにレポートフッタ領域を描画します。レポートフッタは、繰り返し領域（明細行）の後に 1 度だけ描画されるフッタです。
Column Header	Column Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにカラムヘッダを描画します。カラムヘッダは Dataset Table の明細行の直前に描画されるヘッダです。見出しの役割をします。
Group Header	Group Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループヘッダを描画します。グループヘッダは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のヘッダを描画します。
Group Footer	Group Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループフッタを描画します。グループフッタは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のフッタを描画します。

4. 項目のマッピング

デザインしたテンプレートに Salesforce の項目をマッピングします。

4.1 1st Salesforceへのログイン

出力したいオブジェクトコードが存在する Salesforce 組織へログインします。



注意

「新たにログイン」をクリックした場合、OAuth 認証が行われます。

以下の手順に沿って、**接続アプリケーションのインストールを必ず行ってください。**

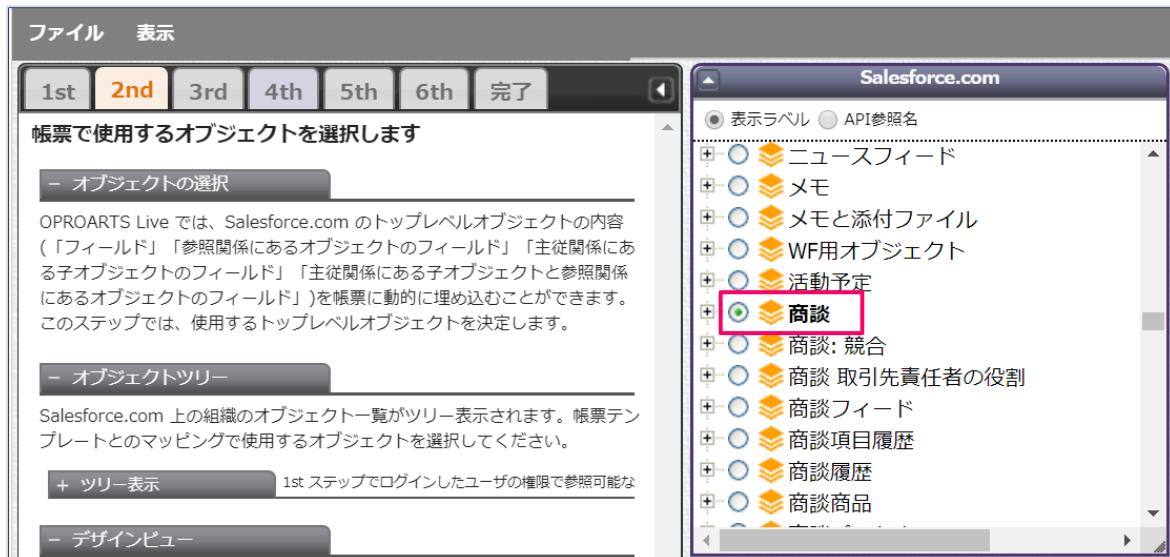
[接続アプリケーションのインストール\(OPROARTS Designer\)](#)

※接続アプリケーションのインストールを行わないと、OPROARTSDesigner を使用できなくなります。

4.2 2nd 起点オブジェクトの選択

使用するオブジェクトの中で起点となるものを指定します。

ここでは商談オブジェクトを指定します。



帳票で使用するオブジェクトを選択します

- オブジェクトの選択

OPROARTS Live では、Salesforce.com のトップレベルオブジェクトの内容（「フィールド」「参照関係にあるオブジェクトのフィールド」「主従関係にある子オブジェクトのフィールド」「主従関係にある子オブジェクトと参照関係にあるオブジェクトのフィールド」）を帳票に動的に埋め込むことができます。このステップでは、使用するトップレベルオブジェクトを決定します。

- オブジェクトツリー

Salesforce.com 上の組織のオブジェクト一覧がツリー表示されます。帳票テンプレートとのマッピングで使用するオブジェクトを選択してください。

+ ツリー表示 1st ステップでログインしたユーザの権限で参照可能な

- デザインビュー

Salesforce.com

表示ラベル API参照名

- ニュースフィード
- メモ
- メモと添付ファイル
- WF用オブジェクト
- 活動予定
- 商談**
- 商談: 競合
- 商談 取引先責任者の役割
- 商談 フィード
- 商談 プロジェクト履歴
- 商談 履歴
- 商談 商品

4.3 3rd 明細オブジェクトの選択

明細に使用する子オブジェクトを選択します。

ここでは OpportunityLineItems を指定します。



帳票で使用する子オブジェクトを選択します

- 明細オブジェクトの選択

OPROARTS Live では、トップレベルオブジェクトの子オブジェクトの内容（「主従関係にある子オブジェクトのフィールド」「主従関係にある子オブジェクトと参照関係にあるオブジェクトのフィールド」）を、明細として帳票に動的に埋め込むことができます。このステップでは、明細部で使用する 1st ステップで選択されたトップレベルオブジェクトの子オブジェクトを選択します。

- オブジェクトツリー

2nd ステップで選択されたオブジェクトと主従関係が定義されている子オブジェクト一覧がツリー表示されます。帳票テンプレートの明細部で使用する子オブジェクトを選択してください。

+ ツリー表示 2nd ステップで選択されたオブジェクトと主従関係が定義されています。

- 明細部

帳票内で繰り返して出力が行われる部分(表形式での出力など)です。このステップで選択する子オブジェクトは、トップレベルオブジェクトと「1対多」の関係(主従関係)が定義されていますので、これを繰り返し出力にします。

+ 対象コンポーネント デザイナ画面で「Dataset Table」「Horizontal Data

- デザインビュー

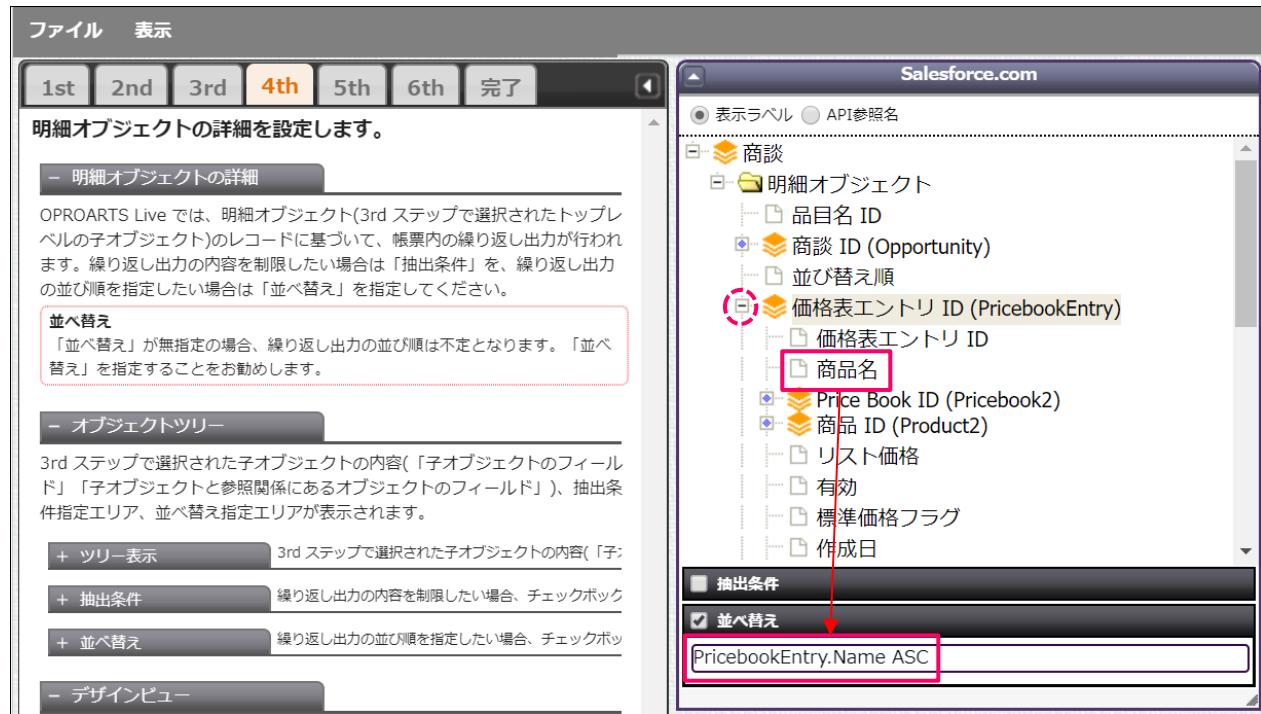
Salesforce.com

表示ラベル API参照名

- 商談
- 子オブジェクト
 - AccountPartners
 - ActivityHistories
 - Attachments
 - ContentDocumentLinks
 - FeedSubscriptionsForEntity
 - Events
 - Notes
 - NotesAndAttachments
 - OpenActivities
 - OpportunityCompetitors
 - OpportunityContactRoles
 - Feeds
 - Histories
 - OpportunityHistories
 - OpportunityLineItems**
 - OpportunityPartnersFrom
 - Shares
 - Partners
 - ProcessInstances
 - ProcessSteps
 - Tasks

4.4 4th 明細オブジェクトの詳細

明細データの表示順や抽出条件を指定します。



The image shows two side-by-side screens. The left screen is the '4th 明細オブジェクトの詳細' configuration in OPROARTS Live, with tabs for '1st', '2nd', '3rd', '4th' (highlighted in orange), '5th', '6th', and '完了'. The '4th' tab shows a note about '並べ替え' (Reordering) and a '並べ替え' checkbox. The right screen is the Salesforce 'Setup' interface for 'PricebookEntry' fields. It shows a tree structure with '商談' (Opportunity) as the parent, followed by '明細オブジェクト' (Detail Object), then '価格表エントリ ID (PricebookEntry)', and finally '商品名' (Product Name). A red circle highlights the '並び替え' (Reordering) checkbox in the '並び替え' (Reordering) section of the '抽出条件' (Extract Conditions) panel, and a red box highlights the 'PricebookEntry.Name ASC' entry in the '並び替え' (Reordering) list.

ここでは明細の並べ替えで商品名(※)を昇順指定しています。

並び替え対象の項目を「並び替え」の欄にドラッグ & ドロップしたのち、

昇順: ASC

降順: DESC

を末尾に追加することで指定可能です。

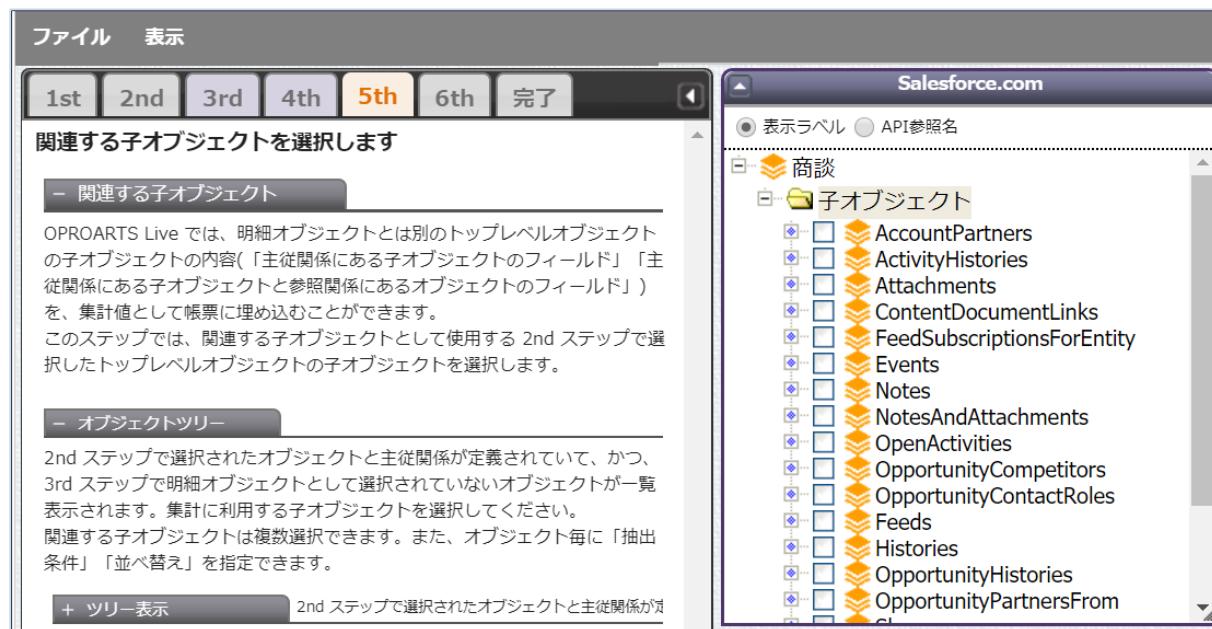
※「価格表エントリ ID」のフォルダー左横にある[+]をクリックすることで階層ツリーが展開され、「商品名」項目が表示されます。

4.5 5th 関連する子オブジェクトの選択

関連リストの指定をします。

明細以外の子オブジェクトの選択、抽出条件、並び順の指定が可能です。

この設定は省略可能です。



関連する子オブジェクトを選択します

- 関連する子オブジェクト

OPROARTS Live では、明細オブジェクトとは別のトップレベルオブジェクトの子オブジェクトの内容(「主従関係にある子オブジェクトのフィールド」「主従関係にある子オブジェクトと参照関係にあるオブジェクトのフィールド」)を、集計値として帳票に埋め込むことができます。

このステップでは、関連する子オブジェクトとして使用する 2nd ステップで選択したトップレベルオブジェクトの子オブジェクトを選択します。

- オブジェクトツリー

2nd ステップで選択されたオブジェクトと主従関係が定義されていて、かつ、3rd ステップで明細オブジェクトとして選択されていないオブジェクトが一覧表示されます。集計に利用する子オブジェクトを選択してください。

関連する子オブジェクトは複数選択できます。また、オブジェクト毎に「抽出条件」「並べ替え」を指定できます。

+ ツリー表示 2nd ステップで選択されたオブジェクトと主従関係が定義されていて、かつ、3rd ステップで明細オブジェクトとして選択されていないオブジェクトが一覧表示されます。集計に利用する子オブジェクトを選択してください。

Salesforce.com

表示ラベル API参照名

商談

子オブジェクト

- AccountPartners
- ActivityHistories
- Attachments
- ContentDocumentLinks
- FeedSubscriptionsForEntity
- Events
- Notes
- NotesAndAttachments
- OpenActivities
- OpportunityCompetitors
- OpportunityContactRoles
- Feeds
- Histories
- OpportunityHistories
- OpportunityPartnersFrom

4.6 6th 動的コンポーネントとマッピング

デザイン画面で動的項目に設定したラベル名がマッピングの項目で表示されます。

各ラベルについて、表示したい項目を選択します。

コンポーネント	タイプ	スタイル	データ
Date	Label		TODAY()
Account	Label		Opportunity.Account.Name
Remarks	Label		Opportunity.Description
ProductName	Label		OpportunityLineItems.PricebookEntry.Name

■ 日付

コンポーネント	タイプ	スタイル	データ	フォーマット
Date	Label		TODAY()	yyyy/MM/dd
Account	Label		Opportunity.Account.Name	
Remarks	Label		Opportunity.Description	
ProductName	Label		OpportunityLineItems.PricebookEntry.Name	

編集

データ	TODAY()
フォーマット	yyyy/MM/dd
条件	

適用

マッピングの検証

式

エクスプレッション

OPROARTS Live で使える式(エクスプレッション)が表示されています。
ここに表示されている演算子や関数を使って、フィールド式編集エリアでフィールド式を作成してください。

※ ツリーからフィールド式編集エリアへドラッグアンドドロップする事で、入力することもできます。

式

サンプル帳票

取引先名

式>システム関数>TODAY()を「編集」パネルの「データ」にドラッグ & ドロップします。

フォーマット>日付時刻の形式>「yyyy/MM/dd」を「編集」パネルの「フォーマット」にドラッグ & ドロップします。

■ 取引先名

コンポーネント	タイプ	スタイル	データ	フォーマット
Date	Label		TODAY()	yyyy/MM/dd
Account	Label		Opportunity.Account.Name	yyyy/MM/dd
Remarks	Label		Opportunity.Description	
ProductName	Label		OpportunityLineItems.PricebookEntry.Name	

編集

データ	Opportunity.Account.Name
フォーマット	
条件	

適用

参照フィールド>「取引先 ID」>「取引先名」を「編集」パネルの「データ」にドラッグ & ドロップします。

■ 備考

コンポーネント	タイプ	スタイル	データ	フォーマット
Date	Label		TODAY()	yyyy/MM/dd
Account	Label		Opportunity.Account.Name	
Remarks	Label		Opportunity.Description	
ProductName	Label		OpportunityLineItems.PricebookEntry.Name	

参照フィールド>「説明」を「編集」パネルの「データ」にドラッグ & ドロップします。

■ 商談商品名

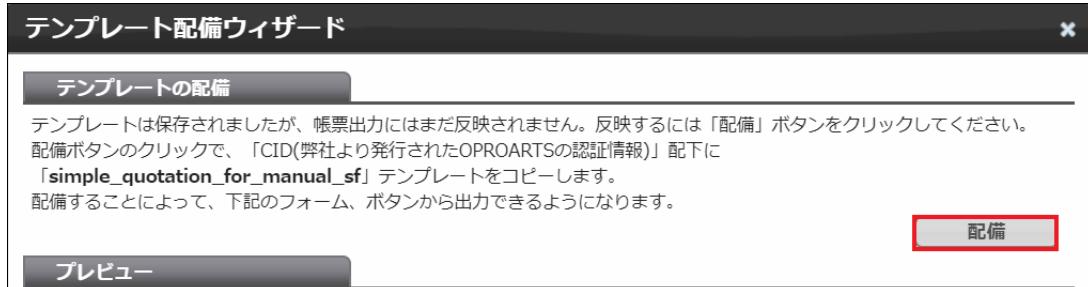
コンポーネント	タイプ	スタイル	データ	フォーマット
Date	Label		TODAY()	yyyy/MM/dd
Account	Label		Opportunity.Account.Name	
Remarks	Label		Opportunity.Description	
ProductName	Label		OpportunityLineItems.PricebookEntry.Name	

明細オブジェクト>「価格表エントリ ID」>「商品名」を「編集」パネルの「データ」にドラッグ & ドロップします。

マッピングが完了したら[次へ]をクリック、その後[保存]をクリックし、



テンプレート配備ウィザードにて[配備]をクリックしてテンプレートを帳票出力に使用できる状態にします。



※テンプレートの編集をした際も、必ず[配備]をクリックしてください。配備をしないと変更点が帳票出力に反映されません。

5. 出力アクションの作成

Salesforce のレコード画面から帳票を出力するアクションを作成します。

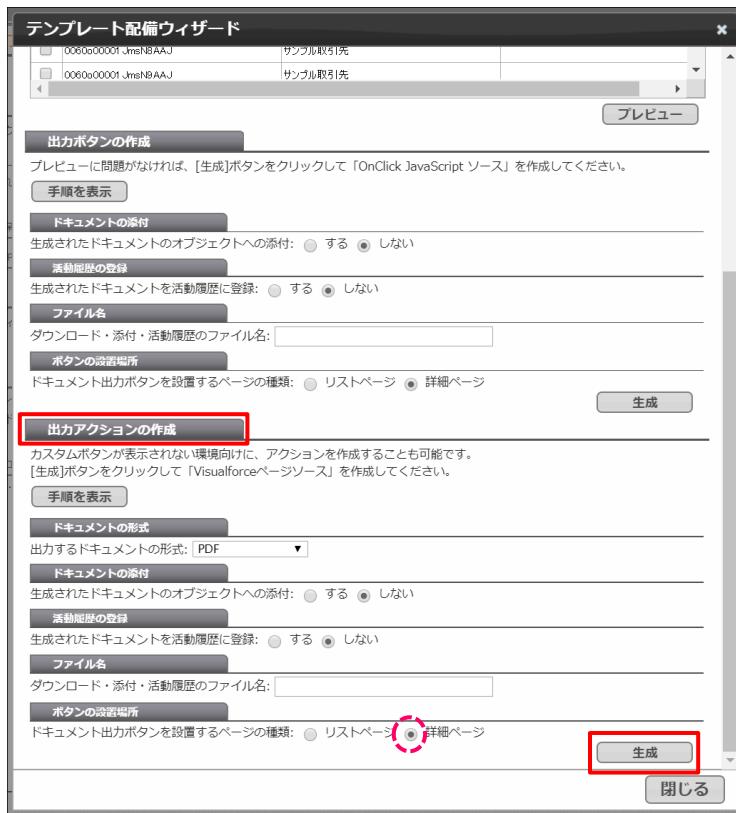
Salesforce のレコード画面から Connector for Salesforce で帳票出力をするためには、出力をリクエストするアクションを Salesforce 上に作成する必要があります。

ここでは 1. 詳細ページに出力アクションを配置する場合と、2. リストページに出力アクションを配置する場合を説明します。

5.1 詳細ページに出力アクションを配置する

- テンプレート配備ウィザードの「出力アクションの作成」で[生成]ボタンをクリックします。

※サンプルテンプレートは商談情報をマッピングしているので、商談に出力アクションを設置します。



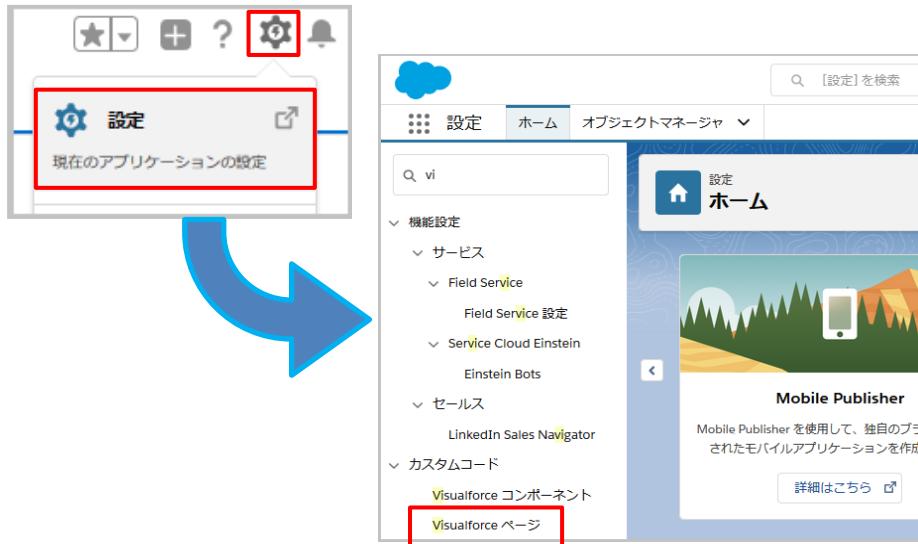
2. 表示されたソースを全選択してコピーします。



```
<!-- このコードは OPROARTS Live - Force.com API の利用サンプルとして OPROARTS Live サーバで生成されました。 -->
<!-- OPROARTS Live - Force.com API の情報は、https://www.opro.net/support/ からご覧になれます。 -->
<!-- Visualforce の情報は、http://www.salesforce.com/us/developer/docs/pages/index.htm (Salesforce.com) からご覧になれます。 -->
<apex:page standardController="Opportunity" standardStylesheets="false" showHeader="false" sidebar="false"
  applyHtmlTag="false" applyBodyTag="false" doctype="html-5.0">
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="utf-8" />
<meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1" />
<title>custom button</title>
<apex:ids />
</head>
<body>
<div class="slds-scope">
  <div class="slds-p-vertical_x-small">
    <h1 class="slds-text-heading_small">実行しています...</h1>
    <p class="slds-text-body_regular">
      <a href="#" onclick="submitAction();">自動的に開始されない場合はこのリンクをクリックしてください。</a>
    </p>
  </div>
</div>
<script type="text/javascript" src="/canvas/sdk/js/publisher.js"></script>
<script type="text/javascript" src="https://s.oproarts.com/js/live_ff-1.40.js"></script>
<script type="text/javascript">
function submitAction() {
  OPROARTS.Live.FF.action({
    // tp: 配備済みテンプレートの名称を指定します。複数指定することもできます。
    // このパラメータを省略することはできません。
    // ※ 出力形式がExcel ブックやWord 文書の場合、テンプレート作成時に指定したエクセルブックの拡張子を付与してください。
    tp:[ "simple_quotation_for_manual_sf" ],
    // fe: フォントの埋め込みかどうかを指定します。true もしくは false で指定します。
    // 実行するメソッドが ".pdf()" または ".pdfPreview()" の場合に有効です。
    // また、テンプレートで埋め込み可能なフォントが使用されている必要があります。
    fe:false,
    // createsFileAttach: 作成されたドキュメントをオブジェクトに添付するかどうかを指定します。true もしくは false で指定します。
    // 添付できないオブジェクトの場合、このパラメータを true で指定しないでください。
    createsFileAttach:false, // Salesforce Filesへアップロード(ContentVersionオブジェクトへのアップロード)
    // createsAttach:false, // 添付ファイル(Attachment)オブジェクトへアップロード
  });
}
</script>

```

3. 設定>カスタムコード>Visualforce ページを選択します。



4. [新規]ボタンをクリックし、下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。

Visualforce ページ

Visualforce ページで、好みのユーザエクスペリエンスのアプリケーションを作成したり、ユーザの生産性を最適化できるよう既存アプリケーションを拡張したりできます。

ピュ:-: すべて 新規ビュの作成

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | C

開発者コンソール 新規

設定 Visualforce ページ

ページの編集 保存 適用 キャンセル 使用場所 コンポーネントの参照 プレビュー

ページ情報

表示ラベル: 見積
名前: mitumori
説明:

Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびモバイルアプリケーションで利用可能
GET 要求の CSRF 保護が必要

Visualforce Markup Version Settings

```

1<!-- このコードは OPROARTS Live - Force.com API の利用サンプル として OPROARTS Live サーバで生成されました。-->
2<!-- OPROARTS Live - Force.com API の情報は、https://www.opro.net/support/ からご覧になれます。-->
3<!-- Visualforce の情報は、http://www.salesforce.com/us/developer/docs/pages/index.htm (Salesforce.com) からご覧になれます。-->
4<apex:page standardController="Opportunity" standardStylesheets="false" showHeader="false" sidebar="false">
5<apex:applyHtmlTag applyBodyTag="false" docType="html-5.0">
6<html lang="ja">
7<head>
8<meta charset="utf-8" />
9<meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1" />
10<title>custom button</title>
11<apex:slds />
12</head>
13<body>
14<div class="slds-scope">
15<div class="slds-p-vertical_x-small">
16<h1 class="slds-text-heading_small">実行しています...</h1>
17<p class="slds-text-body_regular"><a href="#" onclick="submitAction();">自動的に開始されない場合はこのリンクをクリックしてください。</a>
18</p>
19</div>
20</div>
21<script type="text/javascript" src="/canvas/sdk/js/publisher.js"></script>
22<script type="text/javascript" src="https://s.oproarts.com/js/live_ff-1.40.js"></script>
23<script type="text/javascript">
24<function submitAction() {
25    OPROARTS.Live.ff.action({
26

```

表示ラベル(例)

見積

名前(例)

mitumori

「Lightning Experience～」

チェックを入れる

内容

2 でコピーした内容

5. アクションを設置するオブジェクトを選択して、設定の[オブジェクトを編集]をクリックします。



6. [ボタン、リンク、およびアクション]を選択して、[新規アクション]をクリックします。



7. 下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。

商談 アクション
新規アクション

アクション情報を入力

オブジェクト名	商談 i	保存	キャンセル
アクション種別	カスタム Visualforce i		
Visualforce ページ	見積 [mitumori] i		
高さ	250 ピクセル i		
標準の表示ラベル種別	--なし-- i		
表示ラベル			
名前			
説明			
アイコン	 アイコン変更		
保存 キャンセル			

アクション種別

カスタム Visualforce を指定

Visualforce ページ

4 で作成した Visualforce ページ を指定

高さ

変更なし

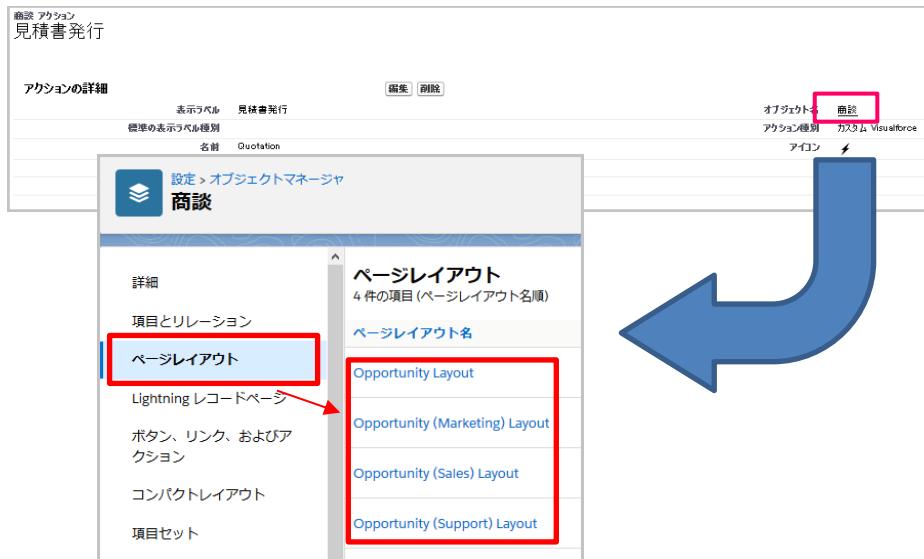
表示ラベル(例)

見積書発行

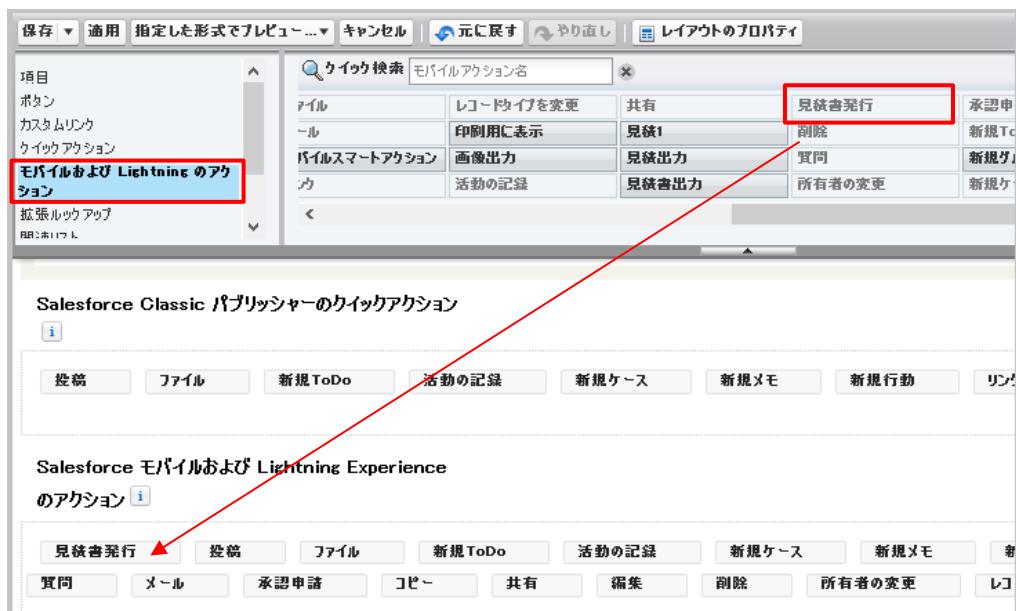
名前(例)

Quotation

8. 設定 > オブジェクトマネージャ > 商談画面に戻り、[ページレイアウト]をクリックし、ボタンを表示させたいページレイアウトの[編集]リンクをクリックします。



9. レイアウト編集画面の「モバイルおよび Lightning のアクション」メニューをクリックし、7 で作成したボタンを「Salesforce モバイルおよび Lightning Experience」セクションにドラッグ & ドロップします。



10. [保存]ボタンをクリックしてレイアウトを保存します。

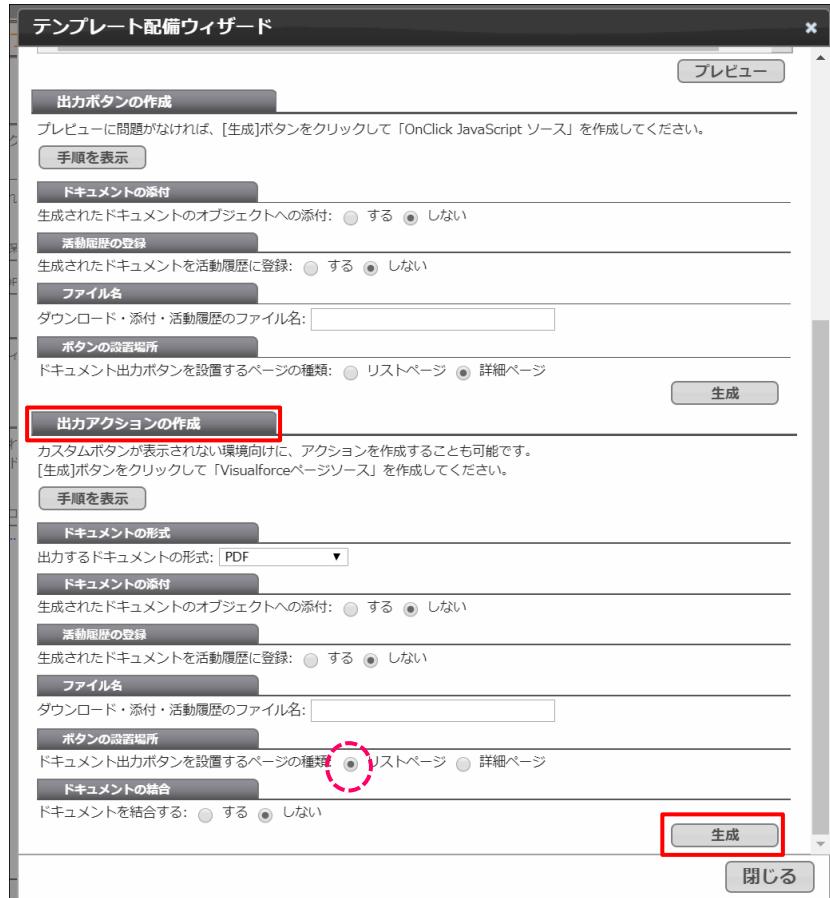


11. 商談詳細ページにアクションが表示されていることを確認します。

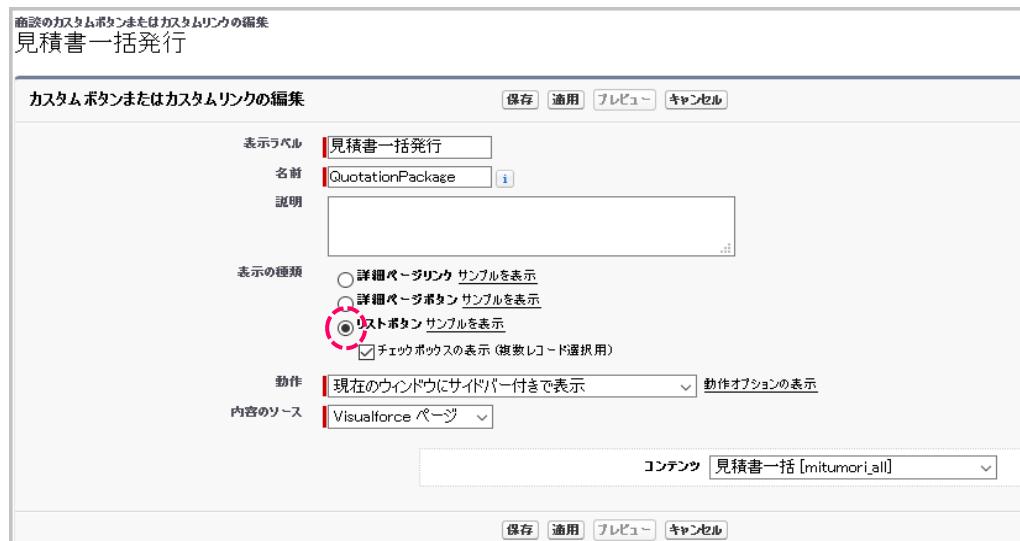


5.2 リストページに出力アクションを配置する

- テンプレート配備ウィザードダイアログのリストページを指定して[生成]ボタンをクリックし、表示されたソースをコピーします。



- 詳細ページの出力アクション 2~6 の手順を行い、「カスタムボタンまたはカスタムリンク」の編集画面へアクセスし、下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。



表示ラベル(例)

見積書一括発行

名前

QuotationPackage

表示の種類

リストボタン を指定

チェックボックスの表示(複数レコード選択用) にチェック

動作

現在のウィンドウにサイバー付きで表示 を指定

内容

コンテンツ→作成した Visualforce ページを指定

3. 設定> オブジェクトマネージャ> 商談画面の[Salesforce Classic の検索レイアウト]をクリックし、

リストビューの[編集]リンクをクリックします。

※ [Salesforce Classic の検索レイアウト]メニューがない場合、[検索レイアウト]メニュー内のリストビューを編集します。



設定 > オブジェクトマネージャ 商談

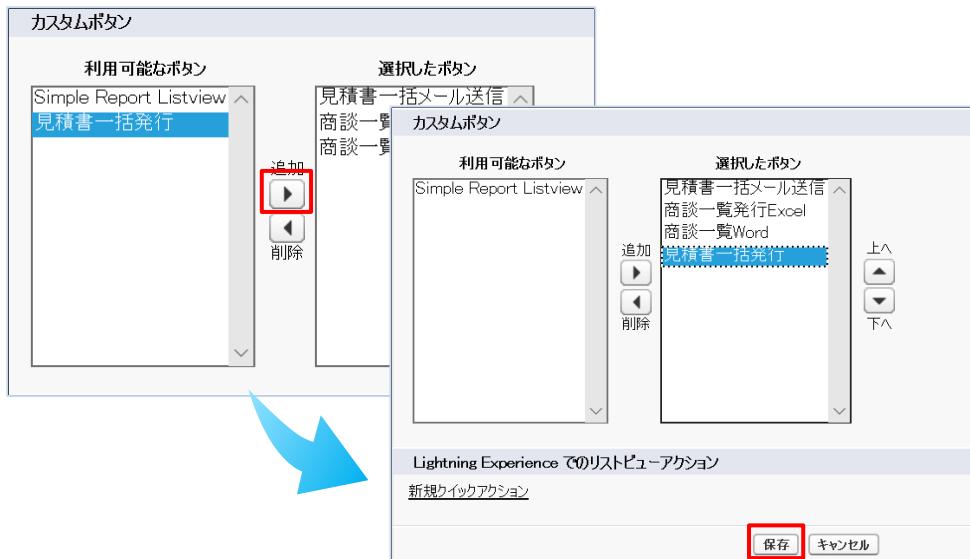
検索レイアウト

リストビュー

発行, 編集

Salesforce Classic の検索レイアウト

4. 2 で作成したアクションを選択して[追加]ボタンをクリックし、保存します。



5. リストビューページにアクションが表示されていることを確認します。

※「すべての商談」を選択してください。



※補足

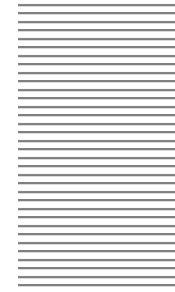
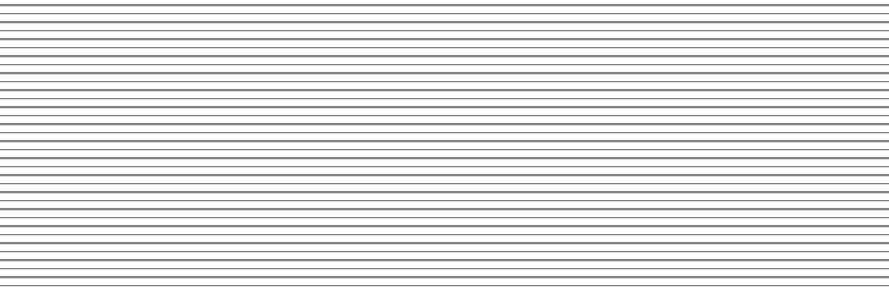
リストビューから帳票出力した場合、詳細ページから出力できる PDF ファイルが画面に表示されているレコードすべてについて生成され、1 つの PDF ファイルに結合されるもしくは 1 つのアーカイブファイルにまとめられて出力されます。

生成された複数の PDF ファイルを結合して 1 つの PDF ファイルにするか、別々の PDF ファイルとしてアーカイブファイルにまとめるかは、「テンプレート配備ウィザードダイアログ」にて選択が可能です。（「結合しない」を選択した場合アーカイブファイルにまとめられます）

6. 参考リンク

帳票テンプレートを作成する際のヘルプページを紹介します。

- 使用可能なショートカットキーなどに関するヘルプページ：[便利な操作機能（ショートカットキー/その他）](#)
- 罫線に関するヘルプページ：[細行の罫線を常に表示させたい](#)
- バンドの高さに関するヘルプページ：[高さの自動調整](#)
- 出力する明細レコードの条件指定に関するヘルプページ：[特定の明細行のみ帳票出力したい](#)
- 明細レコードの並び順に関するヘルプページ：[明細レコードの並べ替えはできますか](#)
- 列を変えて明細行の続きを表示する方法に関するヘルプページ：[明細を折り返して2列に表示したい](#)
- Dataset Table を複数置く方法に関するヘルプページ：[Containerコンポーネントについて](#)
- マッピング画面で使用できる関数に関するヘルプページ：[使用できる関数の一覧](#)
- 数値のフォーマットに関するヘルプページ：[マイナス表記を-1-234-というように出したい](#)
- 条件によってラベルの表示・非表示を変える方法に関するヘルプページ：[条件によって文字を「○」で囲みたい（Salesforce連携）](#)
- フォント埋め込みに関するヘルプページ：[PDFへのフォント埋め込み（OPROARTS Connector for Salesforce）](#)
- PDFに印影画像を出力する方法に関するヘルプページ：[帳票を出力したユーザの印影を出力したい](#)
- 帳票出力時のエラーに関するヘルプページ：[【エラー】項目名が正しくないか、または、項目への参照権限がありません。](#)



**OPROARTS Connector
for Salesforce
ユーザーガイド
(PDF/ヘッダー明細)**